

法学基礎教育研究班

加瀬 幸喜

法学基礎教育研究班の研究活動は、3年目を迎えた。本年度現代社会と法（演習）を担当した古川陽二教授の新規参加を得て、われわれは前年に劣らぬ活発な研究活動を行った。具体的な活動は次の通りである。

① 4月14日に研究会を開催し、本年度の研究テーマについて話し合った。教材については、憲法および刑法の問題を整理統合し、民法のテーマを一部組替えることとした。また、授業運営については、学習意欲のない学生の指導方法の検討を今年の研究の最優先課題とすることに決めた。

② 5月19日に研究会を開催し、授業運営上の問題点について検討した。かねてより懸案であった受講生のシャッフルを行うこととした。シャッフルは前期の成績を基準にして行い、2クラスでシャッフルする場合には上下クラスに、3クラスでシャッフルする場合には、上1クラス、下2クラスとすることに決定した。

③ 6月23日に研究会を開催し、前期統一試験、出席不良者の問題などについて話し合った。

④ 7月30日に研究会を開催し、前期の総括、学生アンケートの結果などについて、話し合った。学生アンケートによれば、約3分の1の学生は入学前1年間の勉強時間が1日30分未満であるが、このような学習習慣が身に付いていない学生をどのように指導したらよいかを特に話し合った。また、憲法および刑法の問題を整理統合し、民法のテーマの一部組替えを行った。

⑤ 今年も、現代社会と法（演習）の前期試験を全クラス統一問題で行った。成績優秀者の氏名を掲示し、成績不良者については、10月22日に再試験を行った。

⑥ 9月6日および7日に合宿を行った。合宿では、7月30日の研究会で議論した勉強意欲のない学生の指導についてあらためて話し合った。

⑦ 10月27日に法学研究所の研究会でこれまでの研究成果を発表した。発表後の懇親会で、研究班員以外の先生方と学生の実態を話し合い、有益な示唆を受けることができた。

⑧ 12月1日に研究会を開催し、後期授業の進行、後期試験の範囲、映画鑑賞会の実施などについて話し合った。

⑨ 12月16日に法律学科1年生を対象とした映画鑑賞会を開催した。鑑賞した作品は、熊井啓監督「日本の黒い夏 冤罪（2000）」で、230人を超える学生が参加した。学生には、感想文の提出を課した。

⑩ 1月15日に神奈川県立希望ヶ丘高校教諭後藤俊男氏を講師に招き、授業運営・学生指導に関する研究会を開催した。研究班員以外の先生方も参加され、高校生の実態や学生が興味を持つ授業方法などについて活発な質疑が交わされた。

⑪ 現代社会と法（演習）の後期試験についても全クラス統一問題で行った。成績優秀者の氏名を05年4月に掲示する予定である。

⑫ 3月8日および9日に合宿を行い、今年度の授業を総括した。また、3月16日に研究会を開催し、来年度の授業準備を行った。